国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

日刊 動労千葉

86.12.13

No. 2430

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）

（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

中曽根・杉浦の意をていした 毎日新聞のデマキャンペーン 許すな

デマ記事への釈明要求と厳重抗議、訂正要求（12/12）にうろたえ、口つぐむ卑劣な「毎日」

十二月十日付毎日新聞のデマ記事、まさに中曽根・杉浦の意を体した動労千葉組織破壊のためのデマキャンペーンを断じて許してはならない。動労千葉は即日毎日新聞に対し怒りの抗議を申し入れたが、いよいよ正念場を迎え敵の攻撃は全ゆる角度から強まっている。敵のあせりにかられた攻撃を見すえ切り、さらに怒りを燃やし、団結を打ち固め闘いぬこう。

事実無根の大デマ

毎日新聞は「今月始めに千葉・勝浦両運転区などから駅の売店などに配転を命じられた同労組約百人が内容証明付き郵便で同労組に脱退届けを出した」「一枚岩の団結にヒビ」と書きつらねている。デマもいいところだ。

そもそも百人もの人間が、いつ、誰に売店に配転を命じられたのだ。勝浦や千葉運転区から百人も売店に出したら、その日から電車が動かなくなるではないか。しかも、その百人が「内容証明付き郵便・・・」と言うに至っては、ウソの上にウソを重ねる大デマもはなはだしい。

毎日新聞は、すでに第一波ストの時に「参加者全員解雇」なるデマキャンペーンで動労千葉の組織かく乱を策し、徹底弾劾されたフダ付きのデマ新聞である。

これがまたぞろ、中曽根の意を体して攻撃を開始したのだ。

「四月一日」が逆に敵の足カセに

狙いは見え見えだ。法案を強行したことは逆に中曽根・杉浦にとって「四月一日分割・民営化実現」が足カセとなっている。これに失敗したら中曽根・杉浦はぶっとんでしまう。

しかし、四月一日実現のためには、労働運動の根こそぎの解体・屈服をぬきにしてはできないこともはっきりしている。

処分につぐ処分、業務移管による仕事の取り上げ、強制配転など全ゆる恫喝にもかかわらず断じて屈しない動労千葉、そればかりか十一月三十日には動労総連合をも結成し、ますます反撃の拠点を拡大している動労千葉への恐怖、これが今回のデマキャンペーンの本質だ。

敵は反撃を恐れている 団結をうち固め闘おう

この攻撃は、あせり、追いつめられたものであると同時に、いよいよ敵がより本格的・全面的組織破壊に出てきたものである。

まさに闘いは、今が正念場だ。闘えば四月一日阻止は可能だ。中曽根・杉浦への怒りをさらに燃やし、いかなる攻撃にも歯をくいしばり、あくまで団結をつらぬき闘いぬこう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！

毎日新聞

12/10 毎日(夕)

千葉動労、脱退が続出

今月100人"一枚岩"欠ける

国鉄の分割・民営化絶対反対を主張している千葉動労（中野洋委員長）の組合員約百人が十二月に入って相次いで同組合を脱退し、組合員の数が最盛時の千百人から三百人少ない約八百人に落ち込んでいることが千葉鉄道管理局の十一日までの調べでわかった。

同管理局の調べによると、今月初めに千葉、勝浦両運転区などから駅の売店などに配転を命じられた同労組員約百人が内容証明付き郵便で同労組に脱退届を出した、という。同局は、同労組に残ったままでは分割・民営化後の新会社に移れないとする不安から脱退に踏み切った、とみている。

同労組は五十四年三月、成田空港へのジェット燃料暫定貨車輸送の反対闘争をめぐって動労本部と対立して分裂。昨年十一月二十八、二十九の両日には分割・民営化に反対してストを打ち、中核派が呼応して全国各地で同時多発ゲリラを誘発するなど、独自の闘争で一枚岩の結束を誇ってきた。

しかし、この時のストで国鉄は解雇者二十人を含む同労組員百二十人を処分し、同労組は累計で三十四人の解雇者を専従組合員としてかかえ込んでおり、組合員の大量脱退は財政的な苦しさに追い打ちをかけるとみられている。

脱退をあおり、[illegible]するデマ宣伝